

職場の安全風土醸成に向けた教育プログラムの開発

深澤伸幸 赤塚肇 喜岡恵子

鉄道の運転現場での安全風土を醸成することを目的として、職場を構成する個人、集団、現場幹部の各層に対する教育プログラムを開発した。対象は、現場幹部と一般社員の双方である。現場幹部には積極的傾聴技法を中心とした教育（リスナー教育）を実施し、一般社員には、危険感受性訓練の実施及びヒヤリハット体験を話し合う場を設けた。危険感受性訓練を「見るゲーム」として行い、その後の小集団討議をヒヤリハット体験を話し合う場とした。アクションリサーチの手法を用い、教育実施前と後とで、安全行動の実践状況や作業安全に対する態度などを質問紙調査によって調査した。その結果、一般社員の危険に関する主観的判断が教育実施後に向上し、「見落としや不安全な行動もしている自己像」への気づきからの認知的動機づけによる行動の変容が見られることと、現場幹部のリーダーシップのあり方にも変化が生じていることが分かり、本教育プログラムの有効性が示唆された。

（鉄道総研報告，2007年5月）

場面（3）－状況説明－
下り各停列車を担当し、○○線
△△2号踏切のX灯を確認しました
その後も、運転を継続するつもりで
次の写真を見て下さい。

(1) 状況説明（場面3）



(2) 見るゲームで用いる教材例
（場面3，1枚目）



(3) 見るゲームで用いる教材例
（場面3，2枚目）

問1 X灯が設置されているコンクリート柱には他に
なにか設置されていましたか？

1. X灯のみが建植されている
2. X灯と特殊信号発光器が建植されている
3. X灯と閉そく信号機が建植されている
4. わからない

問2 △△2号踏切（○○○線）の下り線側には
人がいましたか？

1. いなかった
2. 1人
3. 2人
4. 3人
5. わからなかった

問3 速度70km/hで運転、非常制動をかけたとし
たら何mくらいで停止しますか？

1. 100m以下
2. 150m位
3. 200m位
4. 300m以上

問4 あなたはこの後、どのような行動をとり
たいと思いますか？

1. X灯が点灯していたので、非常制動、非常汽笛を吹鳴する。
2. 海側遮断桿の内側に人がいたので、直ちに非常制動、非常汽笛を吹鳴し、運輸指令所に連絡する。
3. 海側遮断桿の内側に人がいたが、運転に支障がないのでそのまま運転を継続し、運輸指令所に連絡する。
4. 踏切に支障がないのでそのまま運転を継続する。

(4) 設問例（場面3）